

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の基本的人権が保護され、生き甲斐を持って安心して、家庭的な生活をして頂ける様、支援させていただくことを理念とする。	○	個々の生活リズム、スタイルを尊重し、日々の生活が楽しくなるよう支援している。(認知症症状の進行を抑制したい)
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常々職員間で、確認するようにしている。	○	ミーティングのたびに話している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方々や、ボランティアさんにホームにきていただき、趣味活動にも参加していただいている。	○	今後地域への働きかけをもっと密にしていく必要がある。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩中等に地域の方と挨拶を交わすことから始め、気楽に会話できるよう働きかけている。	○	挨拶をして、顔なじみになることから始め、地域の交流ができるよう働きかけている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動に関する情報収集には積極的で、参加できる行事には極力応じるように心がけている。	○	参加できる地域活動の掘り起こしをしていきたい。

グループホーム アイケア・服部 3階(元気組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者等の暮らしに役立つ事についての話し合いをするに至っていない。	○	事業所内で行われる、歌教室等に地域の高齢者の方に、興味を持っていただける様、広報活動をしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員が協働して自己評価、外部評価を実施することで、利用者へのサービスの質に対する認識を深めることができた。	○	受けた評価をしっかり受け留め、出来ることから取組み、改善につなげていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進委員会議を通じて、どんどん利用者やサービスの実際を見て頂きたい。	○	運営推進会議で行った結果報告を職員間で共有し、サービスの改善、向上につなげていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	個々の利用者に適したサービスを支援できるよう、情報をいただけるよう常に連絡できるよう心掛けている。	○	市町村連携強化に努め利用者最適なサービス支援ができるよう努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	支援までは至っていないが、方向性を打だしている段階です。	○	学ぶ機会を持ち、活用できるようにしていかなければならないと思っています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で虐待防止に関しては、利用者を守る立場での認識は浸透していると理解している。		今後も学ぶ機会を持ち、常に利用者を守る姿勢に徹していきたい。

グループホーム アイケア・服部 3階(元気組)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に同席していただき、利用者にも内容を説明し、納得していただくよう配慮している。	利用者や家族が十分に理解、納得していただけるよう、話し合いの時間を調整して、持つよう考慮すべきと考える。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とは普段からコミュニケーションがとれる関係作りに努めている。	○ 意見箱を置いたりして、利用者の意見を聞きやすい環境づくりに努める。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者個々に連絡ノートを作りその都度、気づいた事を記入し、家族との連絡に使用している。	個々に連絡を取り合い、必要な時は、面談の上説明し、理解と、協力を得ている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの不満や意見があった場合は、職員に伝達し、改善策等を話し合っている。	○ 面会時等を利用して、極力話が聞ける余裕を持って、接していきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを定期的に関き、協議の機会を設け、問題点の改善に努める様にしている。	○ 率直な意見交換が出来る雰囲気作りをして、建設的な意見を反映させていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事前に打ち合わせをして、勤務調整をしている。	柔軟な対応や勤務調整をしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむをえない事情により、異動や離職があった場合、利用者の不安やダメージが起きないように、適切な説明と態度で接するようにしている。	利用者からの問い合わせに対しては不安をあたえないような配慮ある対応が必要だと思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	内外の研修を受ける機会の確保をしていくようにしている。	○ 研修を段階的に受けれるようしていきたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	現在交流会や勉強会はしていない。	○ 同業者との交流や、ネットワークづくりの勉強会等の機会を作り、サービスの質の向上をしていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	無理な勤務割を組んだり、出来るだけ時間外勤務はさせないようにしている。(有給休暇等も取りやすくしている)	勤務中の休憩時間はきっちり休憩するようにしている。
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	講習会や研修会等、適宜参加できるよう配慮している。	○
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	コミュニケーションが取れるよう、ゆっくり時間をかけ、心を開いていただけるよう配慮している。	初対面時から入居にいたるまで、何度も話し合いの場を持ち、信頼関係が作れる様心掛けています。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族からの要請があれば、いつでも話し合える状況にあり、時間をかけて話を聞くようにしている。	家族とも何度もお会いして、話を聞くようにしている。

グループホーム アイケア・服部 3階(元気組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人ができる事,してみたい事、日常の過ごし方等を、本人や家族様からの話をよく聞き、希望に添った支援を心がけている。		日々の生活に張り合いを持っていただけるよう、できる範囲で、役割を持った生活をしていただけるように配慮していきたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者とのコミュニケーションを密にし、見慣れたもの、使っておられた物を置くなど、慣れていただく為の配慮をしている。	○	他の利用者、慣れていただけるような雰囲気作りをしていく。興味や関心のある事に働きかけて、共同生活に慣れていただけるようにする。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意思を尊重しつつ、買い物や食事作りを一緒にすることで、出来る事を共に喜び合い、信頼関係につなげている。	○	共に支え合い必要とされていると感じられるような関係作りを構築していきたい。(寄り添う介護が実践できるようにしたい。)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	定期的に近況報告の便りを家族に送ったり、居室に家族⇄職員間の連絡ノート置いて、職員と共に考え、協力していただけるように考慮している。		家族と離れていても、共に支援する協力者として、連絡を密にし、情報を共有していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	誕生会や、レクリエーション行事予定を家族に知らせ、共に楽しめる機会を提供している。	○	家族との連絡を密にし、共に考え合う関係作りを支援していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意思に基づき、同行者が居れば、外出、外泊は自由な環境作りをしている。		馴染みの関係継続を支援する事で、本人の楽しみや生きる張り合いになるよう支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共通の趣味を見だし、一緒に楽しめる場を、提供している。 (歌や手芸、折り紙、写経等一緒に楽しむ機会を持つ)		共同生活者としての仲間作りが出来るよう支援していきたい。

グループホーム アイケア・服部 3階(元気組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族や利用者から要請があれば、共に考え、支援協力している。	○	家族や利用者からの支援要請には出来るだけ応じられるような環境作りを念頭に、より良い人間関係を構築していきたい。
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、一人ひとりの思いを把握し、些細な事でも職員間で申し送り、情報の共有化を図るようにしている。		一人ひとりの意志や思いを大切に、個別対応が出来る様な環境作りをしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	モニタリング等から、個人の情報収集に努め、個人歴の把握に努めている。	○	コミュニケーションを密にし、信頼関係を構築する事から得られる情報を支援に反映していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	バイタルチェック、水分、食事摂取量のチェック、排泄、活動状況等から現状維持するようつとめている。		一人ひとりの意志や思いを大切に、個別対応が出来る様な環境作りをしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議で取り上げた意見等は出来るだけ、ケアプランに反映させている。		ケアプランについては、スタッフ間でよく話し合っている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは月に1回必ず行っており、問題が生じた時は家族に連絡をとり話し合い、スタッフミーティングを開催して対応している。	○	出来るだけ、利用者、家族、スタッフ等から様々な意見を聞き、現状に即した計画を作成するようにしていきたい。

グループホーム アイケア・服部 3階(元気組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等個別記録への記入を徹底させ、職員間で情報の共有化を図り、介護計画に反映させている		個人記録に加え職員への連絡ノートへの記入等、日々の変化を見逃さないような工夫を重ねてより良い介護計画へ繋げていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診のための外出等家族が対応出来ない状況においては本人納得の上職員が対応するなど柔軟な取り組みをしている。		その時々々の要望に柔軟に応じている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアの協力を得て手芸や歌教室・陶芸、等利用者への支援をしている。	○	施設内にとどまらず地域と協働していけるよう働きかけ幅広い支援体制を作っていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	問題が生じ必要であれば、他社のケアマネジャーや事業者を紹介し他のサービスを利用していただけるように支援している。		近隣の市町村サービスの実情も調べ、他の様々なサービスの利用もしていただけるように支援していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連絡も密に行い、協働に努めている。	○	今後は、今まで以上に連絡を密にしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医への対応は積極的に支援している。		かかりつけ医への受診対応はしている。

グループホーム アイケア・服部 3階(元気組)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>44</p> <p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>地域の認知症の専門医と連携し、利用者が定期的に受診したり、検査が受けられる体制をとり支援している。</p>		<p>専門医との関係をより密にし、利用者の変化に迅速に対応出来る連携体制を確立していきたい。</p>
<p>45</p> <p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>定期的に医療機関から訪問看護師の支援をうけている。</p>		<p>介護と看護が共働して利用者の健康管理を行うことで、不安のない日々を過ごしていただきたい。</p>
<p>46</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>担当医師とは連絡を密にし、常に相談出来る体制をしている。入院している利用者を定期的に見舞い、早期退院出来るよう支援している。</p>		<p>入院している利用者とのつながりを持ちつつ、医師と密な関係を築いていきたい。</p>
<p>47</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>体調の変化を早期に家族に連絡したり、面会頻度を増して頂き、状態の変化への認識を職員と共働して見守るようにしている。</p>	○	<p>利用者の方々が安心していただけるよう、ご家族との関係を維持して、医師との連携をとりつつ見守っていきたい。</p>
<p>48</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>かかりつけ医を持っている利用者はその関係を維持し、かかりつけ医のいない利用者への支援は家族と相談している。</p>	○	<p>重度になれば病院へ入院するばかりでなく、看取り介護もできればと考えている。</p>
<p>49</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人、家族、に関わるケア関係者間で十分な話し合いを行い納得して、住み替えをしていただけるよう、配慮している。</p>		<p>住み替えによる、ダメージがないよう、いろいろな配慮をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個人の価値観を尊重することを行っている。プライバシーや誇りを損ねるような言葉かけや対応は行っていない。	○ 個々の入居者様の生活歴、価値観、概念を知ったうえで入居者様ひとりひとりケアしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員は入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取り組みを日常的に行っている	○ 職員は、入居者様に対して「～して下さいますか?」「どうされましたか?」などのような選択できる表現を使用していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○ 入居者様のペースに合わせて一人ひとりの入居者様と接する時間を最優先していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者様一人ひとりが本人の希望の店や、馴染みの店に行けるように支援している。	金銭面で制限のある方には安くても納得いただけるような服と一緒に購入して、出かけられるように支援していきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が楽しみながら職員と一緒に準備や食事を行えるように支援している。	職員と入居者様は食事時間をともにし、話題提供を行い楽しい食事時間になるように支援している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者様が希望される飲み物やおやつ等を状況にあわせて、提供している。	入居者一人ひとりの状況に合わせて、日々楽しく過ごせるように支援している。

グループホーム アイケア・服部 3階(元気組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの1日のパターンに合わせて気持ちよく排泄できるように支援している。		排泄の失敗を減らし失禁の不安を減らしプライバシーに配慮して行えるように支援していきたい。
57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望に合わせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯・入浴時間・回数など)		夜間、早朝を除く時間帯での入浴が可能であり入居者一人ひとりがいつでも入浴できるように支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し夜眠れない入居者には1日の生活リズム作りを通した安眠策をとるように支援している	○	夜勤者からの夜間睡眠状態の報告を基にスタッフ全員で入居者様にあった日中の過ごし方を考えていくように支援していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりが楽しい日々を過ごせるような雰囲気を作り、気晴らしが出来る支援をしている。(役割分担もお願いしている。)		入居者が張り合いのある日々を過ごせるよう、スタッフ全員が支援していけるように心掛けたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者一人ひとりが楽しく買い物ができ、お金を使えるように支援している。		入居者の希望に応じて、常に買い物に行けるような雰囲気を作っていけるように支援していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者がホーム内だけで過ごす事なく、積極的に近所へ出掛けて楽しめるように支援している。		少しの時間でも、外出を望まれる時は出来る限り支援している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お花見、絵画展、神社参拝、回転すしの外食等季節ごとの行事外出を支援させていただいている。(時々個別に喫茶店等で楽しんでいただいたり、ドライブに御誘いする時もあり。)	○	バス旅行、映画、観劇等にも機会があれば外出支援していきたい。

グループホーム アイケア・服部 3階(元気組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、親戚、友人に年賀状や手紙を書き、切手を貼り、投函していただいている。電話はいつでもできるように支援している。		家族の誕生日、クリスマスカード等の便りもできるように支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	個室であるため、いつでも気軽に訪問でき、ゆっくりと過ごしていただけるような雰囲気を作っている。	○	本人や家族様の意見を聞き、更に居心地よく過ごして頂ける様な環境を作っていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様の意思を尊重し、行動を制限しないようにしている。		今まで通りに利用者様の行動は制限しないようにしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	認知症の方々の施設という事と、帰宅、外出願望のある利用者が入居されていることもあり、事故防止と安全確保のため階段側通路扉と玄関は施錠している。職員見守りのできる時は階段側扉は開放している。		将来的には施錠をなくしたい。利用者様が、外出を希望された時は職員同行で、開錠している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間共に、必ずフロアに職員がおり、利用者の安全確保に留意している。	○	利用者がいつも誰かが見守ってくれているという安心感が得られるように、チームケアを徹底する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物(剃刀等)は職員預かりで、事務所保管にしているが、包丁、はさみ、縫い針、アイロン掛け等は職員見守りのいもと、自由に使っていただいている。		利用者様の希望には出来るだけ沿っていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員一人ひとりが利用者の行動をさりげなく見守り、報告、連絡、記録することを徹底している。	○	利用者一人ひとりの行動を見守り、些細な事でも、スタッフ間で報告、連絡、相談をする様にしている。

グループホーム アイケア・服部 3階(元気組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生による医療機関への対応策等、職員に徹底させ、機会ある毎に応急手当の講習を受ける様に行っているが、定期的には行っていない。	○	職員全員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行える様にしていきたい。利用者様の安全と安心を心がける。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域連絡会議を行い、地域との連携が取れるような体制づくりに努めている。	○	地域密着型の特性を生かし、地域と共にある施設づくり目指し、地域の一員である事を目標としたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の健康状態や身体状況は常に家族との連絡を密にしており、起こりうる危険性も機会ある毎に話題に取り上げている。		緊急時の連絡網を再確認し、家族様と一緒に考えていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常時利用者の体調の変化には注意し、特変が見られた場合は、申し送りで職員が情報の共有をし、対応している。	○	利用者との関わりを密にし、体調の変化を見逃さない、注意深く見守ると共に職員間の意識を高めていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から薬と一緒に貰う説明書をスタッフ全員が読み、副作用等についても見逃さないようにしている。お薬手帳でも確認している。	○	利用者が服用している薬の用量、用法、特に副作用への理解を深め、職員間で情報の共有をはかり、薬に対する意識を高めていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩にでかけたり、リズム体操をしたりして、出来るだけ体を動かしていただき、腸の動きが促進されるように援助している。また、食事も繊維質の多い野菜類を多く出すようにしている。利用者様が喜ばれるので、おやつによく焼き芋を食べていただいている。		出来るだけ下剤等に頼らず、自然に排便が出来るようにしていきたい。(便秘が続いている時などは、おやつに焼き芋が続く日があり。)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは徹底して行っている。訪問歯科医、歯科衛生士にも定期的なきていただき、口腔ケアのチェックをしていただいている。	○	出来るかぎり、自分の歯を残し、自歯で食べて頂けるように、訪問歯科医と共に口腔ケアは徹底していきたい。

グループホーム アイケア・服部 3階(元気組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が毎日の栄養状況、カロリー計算を行い献立をたてている。認知が進み水分摂取が自分で出来ない利用者様には、職員が飲み物を促している		旬のものを、おいしく食べて頂ける様にしている。糖尿病の利用者にはカロリー計算をした食事をお出ししている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対する予防対策として、利用者、職員への手洗い、うがいを徹底し、居室やフロアの清掃、ドアノブ、ベッド廻りには消毒にも心がけ、常に清潔を心掛けている。	○	感染症に対する情報の共有化を図り、迅速に対応できるよう、徹底していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材はこまめに買い出しに行き、常に新鮮なものを召し上がっていただける様にしている。食材購入時は職員が厳しくチェックして、購入している。	○	調理を担当する職員、利用者様の衛星管理も徹底して行きたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者様が手芸、陶芸教室でつくられた作品を玄関に展示したり、季節の物を飾ったりして、親しみやすい玄関づくりに心がけている。		建物自体が元々病院なので仕方がないが、出来るだけ、家庭的な雰囲気の玄関になるように工夫している。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂等の共用部分では季節毎の飾り付けを心がけています。また、利用者の作品(手芸、陶芸等)を玄関等に飾って、作品の発表の場としている。		利用者の趣味、興味、出来ることを大切にし、ボランティアの協力を得て、季節感のある作品をつくり、共用部分を活用し、楽しく過ごしていただきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファ、テーブルを置き、トランプやゲーム、歌など利用者それぞれが自由に楽しんでいただける空間作りをしている。	○	個室対応の為、利用者が出来るだけ共用空間で楽しく過ごせるように工夫していきたい。

グループホーム アイケア・服部 3階(元気組)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者が使い慣れた物を持ち込んでいただき、安心出来る空間作りをして頂いている。		季節に合った居心地の良い居室作りをしていただきたい。利用者の希望を聞きながら日々の生活に変化を加えていきたい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気と室温は、常時点検し、気持ち良く過ごしていただくように、まだ体調の変化にも配慮しつつ、随時対応している	○	職員が共通の認識を持ち、常に利用者が快適に過ごせるよう配慮していきたい
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやスロープが適材適所にあり、利用者が出来るだけ自立し、自由に行動できるような空間作りをしている	○	限られた施設内でいかに活動範囲を広げていくかが今後の課題
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者が理解し易いように張り紙をしたり1か月の予定表を作っている		利用者個々の予定等わかりやすく書いて理解を深めていきたい
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花火見物やお月見をベランダで楽しんでいる	○	建物回りに活用できる空間が無いのが残念だが、ベランダに花を植える等もっと活用し、利用者を楽しんでいただきたい

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム アイケア・服部 3階(元気組)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭におられた時と同じように暮らしていただいている。(入居者と職員が気兼ねなく仲良く暮らせていると思います) ボランティアによる陶芸教室・歌教室・手芸などを楽しんでいただいております、食生活には特に力を入れています、管理栄養師による糖尿病などの食事管理をきちんと行っているため利用者様がみんな元気だと家族様から喜ばれています。